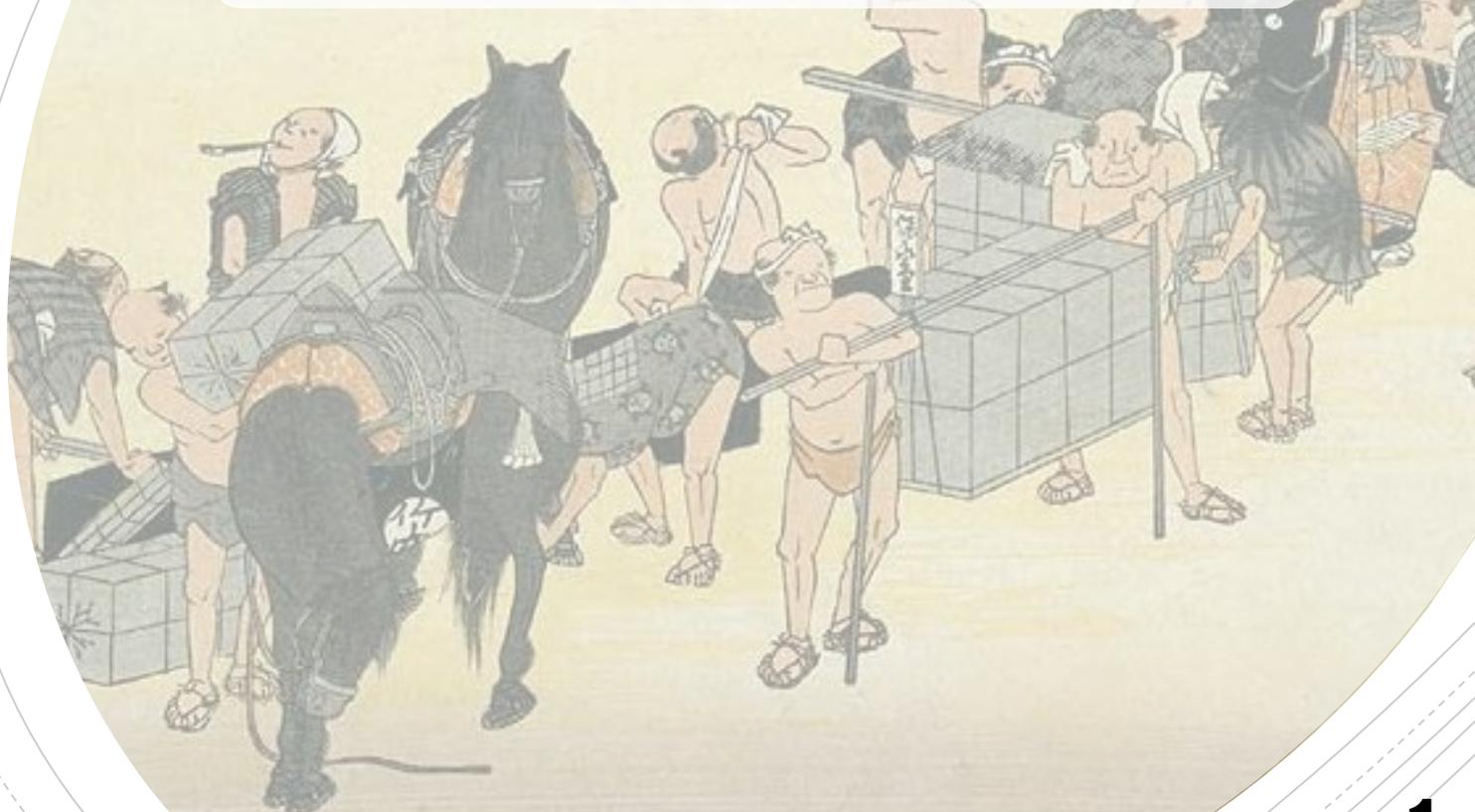


東
海
之
次

うまぐつ れきし いま
馬沓の歴史と今、これから



三重県

お伊勢参り

伊勢神宮へのお参り
主に徒歩で街道を旅する

街道沿いには…
返馬所や宿、茶屋があった

➡馬を返す場所

- ・ 神宮に行くには川を船で渡る
- ・ 神宮の敷地内は動物禁止
- ・ 馬は連れていけない



▲返馬所に由来を持つお店も現存

江戸時代の馬旅

馬方が曳く馬に乗る

➔馬で人や荷物を運送する人
駄賃馬稼、馬子、馬借ともいう

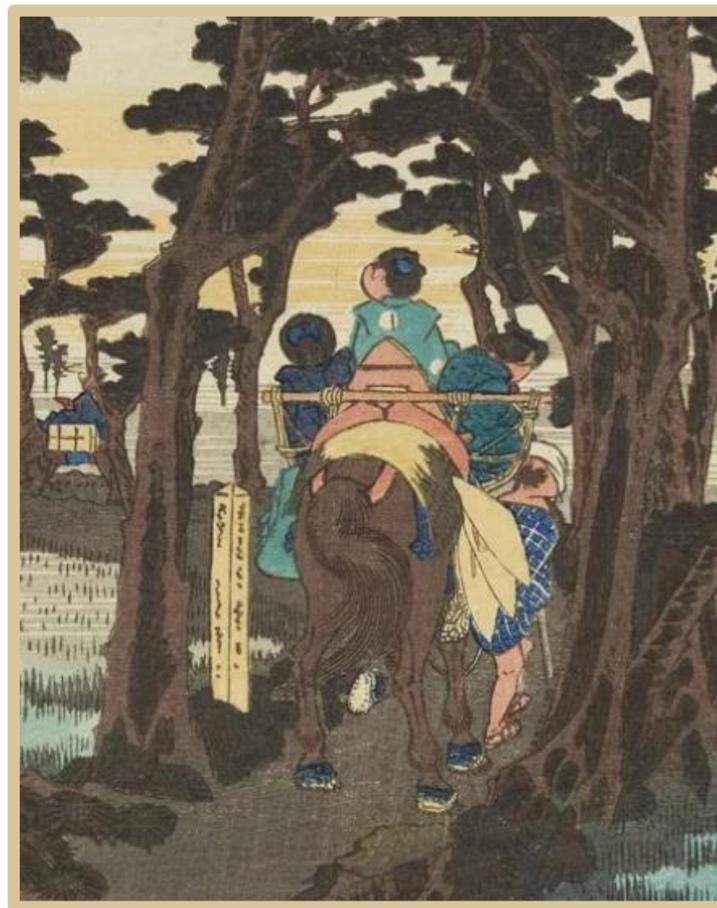
💡 お駄賃の由来は馬を使う輸送料

物や人を運ぶ鞍の活躍

- ・ 駄鞍 … 荷物を運ぶための鞍
- ・ 和鞍 … 日本独自の乗用鞍

お伊勢参りで活躍したのは…

- ・ 三宝荒神 さんぼうこうじん
なんと3人乗りの鞍！？



歌川広重『東海道五十三次・吉原』一部分

三宝荒神

参宮街道で用いられた独特な鞍

子どもや女性の3人乗りもできる
真ん中に一人またがり、左右に子どもや荷物を載せた



東海道中膝栗毛

ストーリー

やじろべえ きたはち

- ・ 主人公の弥次郎兵衛と喜多八の徒歩旅滑稽本
- ・ はじまりはお伊勢参り

東海道 …江戸の日本橋から京都の三条大橋まで

- ・ 今の東京・神奈川・静岡・愛知・三重・滋賀・京都
- ・ およそ490kmの街道で今の国道1と15号線

膝栗毛

- ・ 栗毛の馬に乗って…という意味

お伊勢参りブームの立役者



庄野宿人馬宿継之図

庄野

- ・ 三重県鈴鹿市

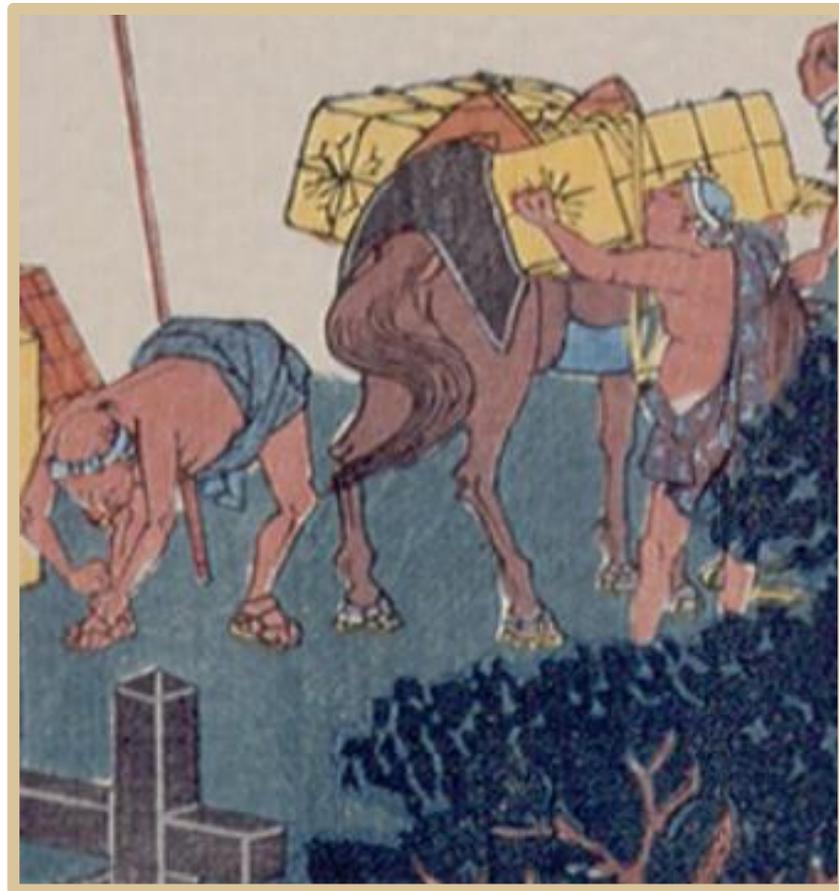
場面

- ・ 人と馬が出立の準備中

馬方と馬の装備

- ・ 駄鞍に荷物を乗せている
- ・ ぞうりを履く人間

➡馬の肢にも…



歌川広重『東海道五十三次・庄野』一部分

馬沓（うまぐつ）

➔馬わらじ・馬わら靴との表記もある



▲ 馬の資料館・常設展示「馬のわらじ」

▲ 北海道博物館・企画展「馬わらじ（馬わら靴）」

展示「馬のわらじ」：北海道帯広市「馬の資料館・常設展示」
展示「馬わらじ（馬わら靴）」：北海道札幌市「北海道博物館・企画展示《あっちこっち湿地》」

もくじ

馬沓と日本の馬の歴史

- ①馬沓(うまぐつ)とは
- ②蹄鉄(ていてつ)
- ③蹄鉄と馬の蹄
- ④在来馬と洋種
- ⑤馬と日本史

馬沓をつくってみよう

- ①馬沓の編み方を調べたきっかけ
- ②馬沓の材料
- ③馬沓の編み方
- ④現代の材料を活用すると

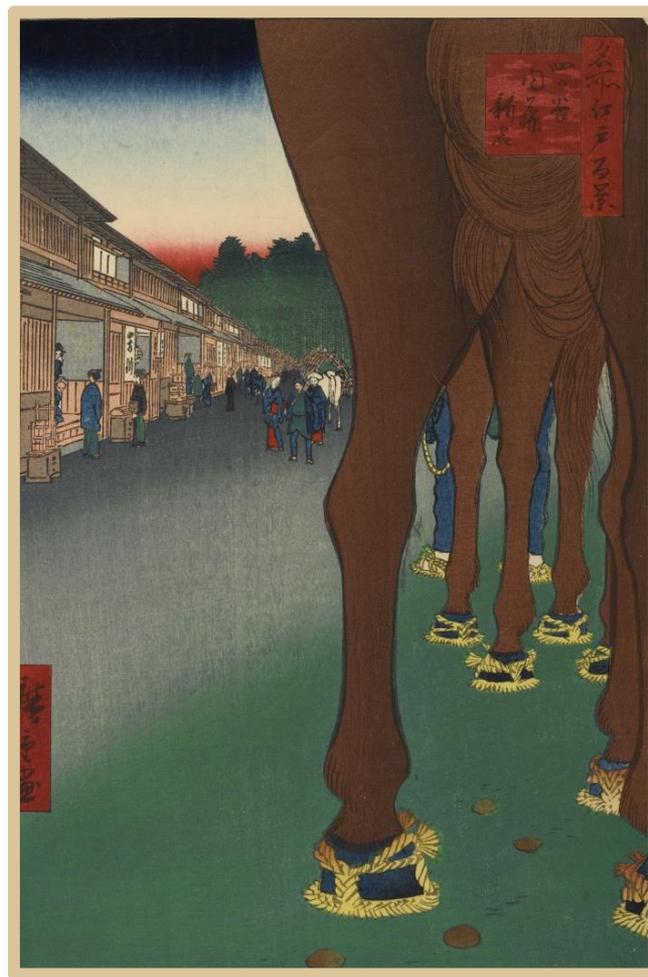
馬沓（うまぐつ）

何のために？

- ・ 馬の蹄を保護するため
 - 💡 牛の蹄を守る牛沓もある

何でできている？

- ・ 稲わら
 - 💡 1時間ほどで切れてしまう…
そのため、予備を持って歩く



歌川広重『名所江戸百景 四ッ谷内藤新宿』

馬沓（うまぐつ）

誰が履かせた？

- ・馬方や馬車屋・武士

いつの時代？

- ・明治末期まで

💡 洋風の蹄鉄の伝来は明治
蹄鉄の利用が主流になる

しかし…

馬沓は落鉄の時の為に常備



歌川広重『東海道五十三次・藤枝』一部分

蹄鉄（ていてつ）

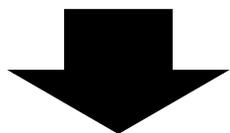
材料

鉄・アルミニウムなど

歴史

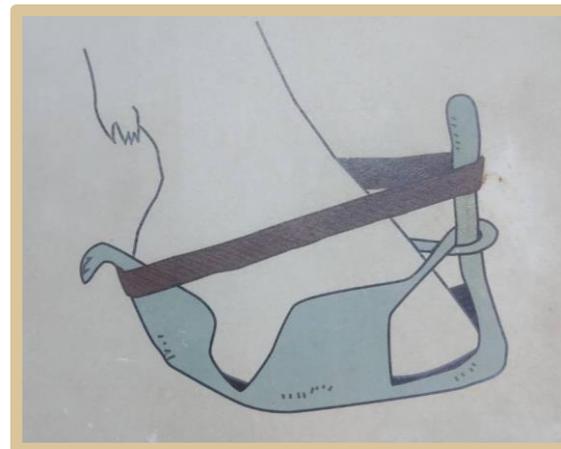
古代ギリシャ・ローマ時代
(諸説あり)

- ・ヒポサンダルを前身とする
- ・紐による固定は耐久性に乏しい



ていちょう

蹄釘で固定する蹄鉄へと進化



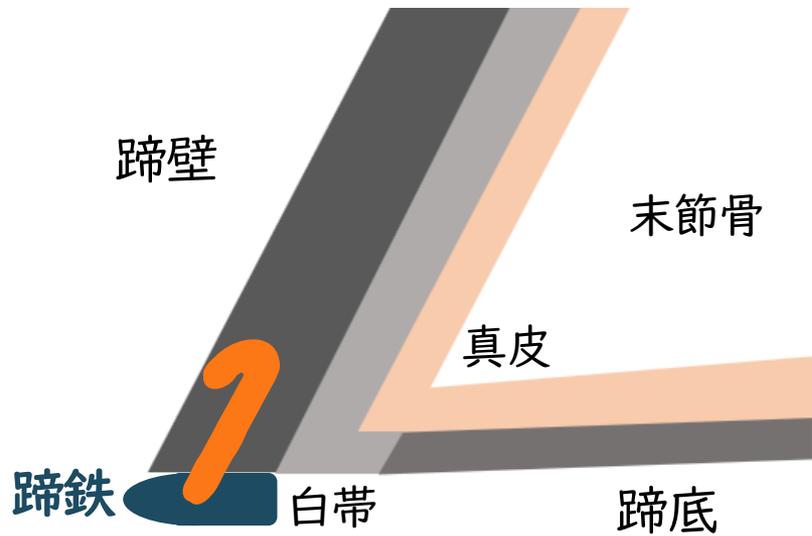
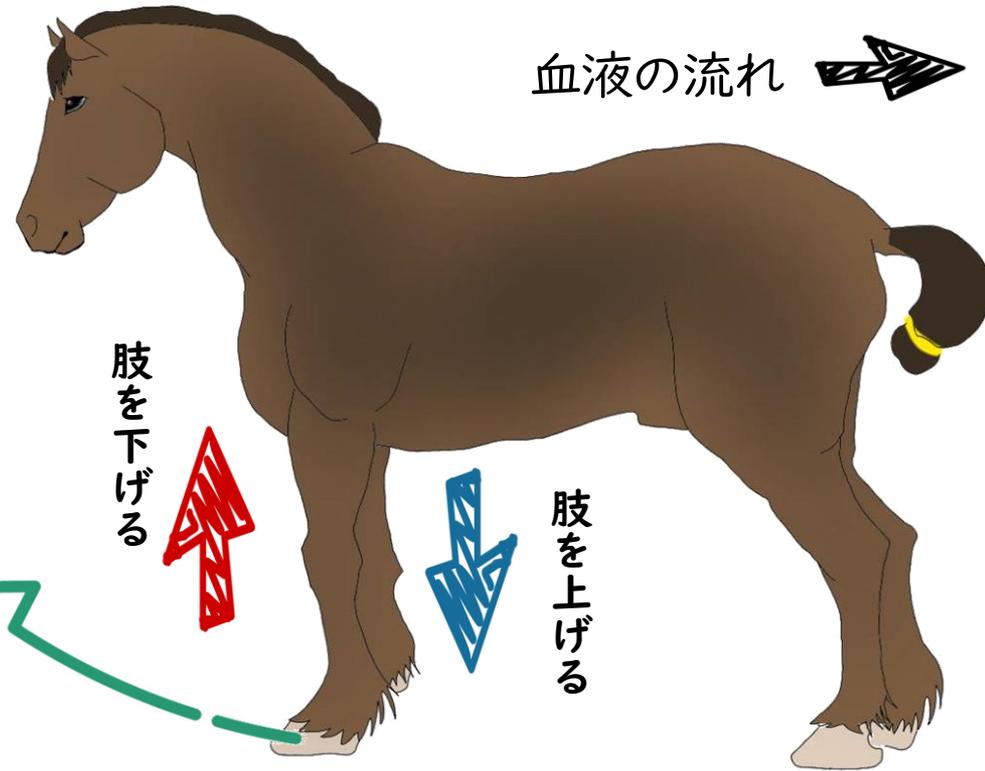
▲ヒポサンダル（馬の博物館）



▲蹄鉄（ていてつ）

蹄鉄と馬の蹄

血液の流れ →



蹄釘 人間でいう爪の部分に釘を打つ

蹄鉄の役割

- ・ 強い運動から蹄を守る
- 固い地面や激しい運動で摩耗しすぎると痛みや病気に…

蹄の役割：蹄機ていき

- ・ 血液を巡らすポンプ
 - ・ 運動時のクッション
- 歩くことで蹄が拡張収縮する

在来馬と洋種



北海道和種馬

体高：130cm

駄載や農耕の仕事をした

武士の馬である南部馬がルーツ



フリースタン

体高：160cm

乗馬や馬車の利用がメイン

中世ヨーロッパの騎士の馬に由来

馬種の比較例



蹄鉄をつけない馬

小柄

粗食耐性がある

草原に生きる

蹄や四肢が丈夫

蹄鉄をつける馬

大柄

エネルギーが多く必要

街に生きる

舗装された場所を歩く

うまぐつ
何故日本では馬沓が発達？

- ・ 蹄の丈夫な在来馬
- ・ 道路の整備面（橋・舗装がない）

ていてつ
何故ヨーロッパでは蹄鉄が発達？

- ・ レンガなどで舗装された道路
- ・ 馬車の発達
- ・ 蹄に負担のかかる体格

在来馬のルーツ



馬と日本史



古代

- ・ もともと馬はいなかった（魏志倭人伝より）
- ・ 弥生時代後期から古墳時代に馬が朝鮮半島から伝来
- ・ 8世紀ごろから牧場での馬生産が始まる

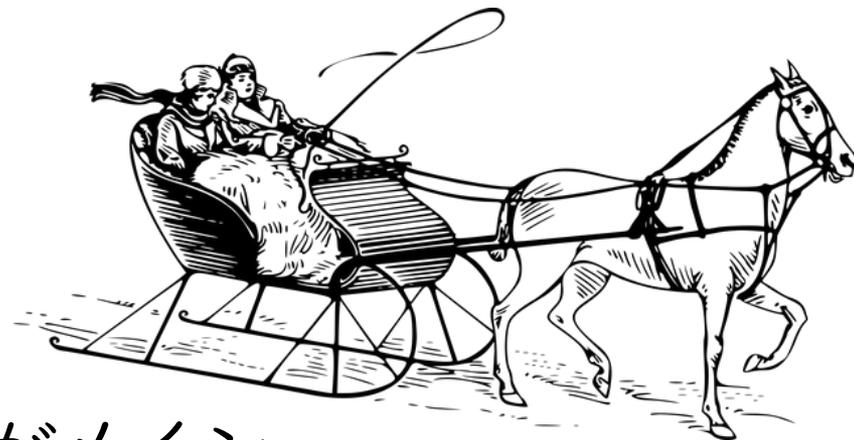
💡 牧方式…広い敷地に放飼いで自由交配

戦国

- ・ 平安～鎌倉時代前期に武士は騎射を主とする
- ・ 戦国後期は長槍や鉄砲の登場により重要度が下がる
- ・ 兵糧や荷駄の輸送に重宝

💡 蹄鉄をつけない・去勢しない牡馬・右からの騎乗

馬と日本史



江戸

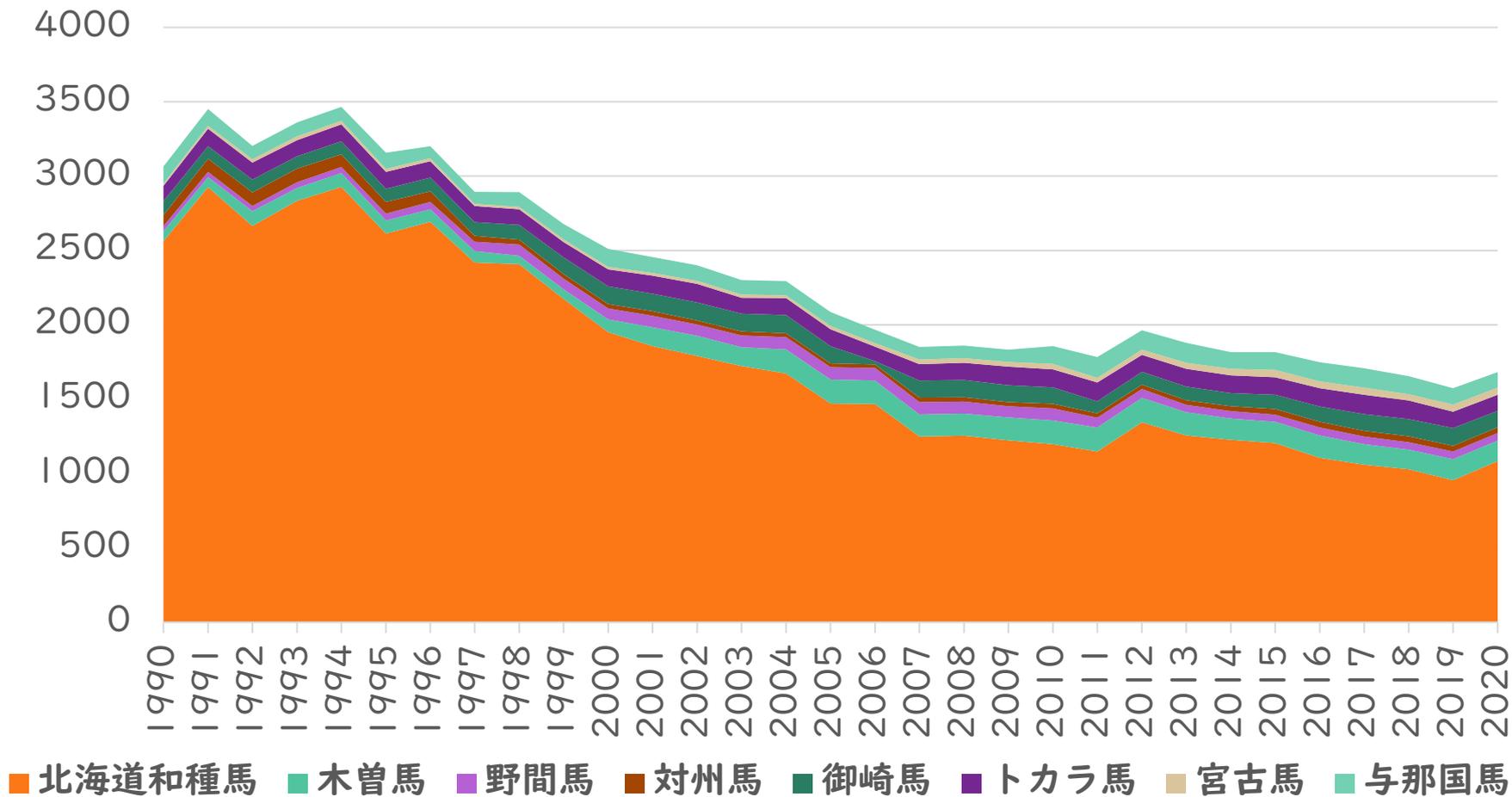
- ・ 輸送手段として馬を利用
- ・ 馬車文化は発達せず、駄載がメイン

明治

- ・ 平民の乗馬が許可（曳き手の必要がなくなる）
- ・ 北海道開拓使が官営で馬橇の生産に注力する
 - 💡 北海道の馬橇はロシア仕込み
- ・ 文化の急激な発展により馬車が広まる前に鉄道が登場
- ・ 日清、日露戦争を経て馬の大型化を政府が進める
 - 💡 輸入する種牡馬の種類を限定

アラブ・サラブレッド・アングロアラブ・アングロノルマン・ハクニー・ペルシュロン

在来馬の減少



数値引用元：日本在来馬の頭数（日本馬事協会）

今に残る馬文化



どうして乗馬・馬車の文化が少ないの？

文化	<ul style="list-style-type: none">・ 騎馬文化を中心に伝来・ 公家は牛車、武士は馬・ 馬は高価で権力の象徴
法制度	<ul style="list-style-type: none">・ 明治時代まで平民は乗馬できなかった
気候と地形	<ul style="list-style-type: none">・ 多雨・ 山と坂道が多い・ 軍事戦略上、橋がすくなかった
急速な近代化	<ul style="list-style-type: none">・ 馬車と鉄道の伝来の間が少なかった

うまぐつ
馬沓の編み方を調べたきっかけ

働く馬に怪我や病気はどうしても…

- ① クッション材
- ② ベトラップでぐるぐるまき
- ③ おむつで防水＋クッション性を上げる
- ④ 防水強カテープを巻く

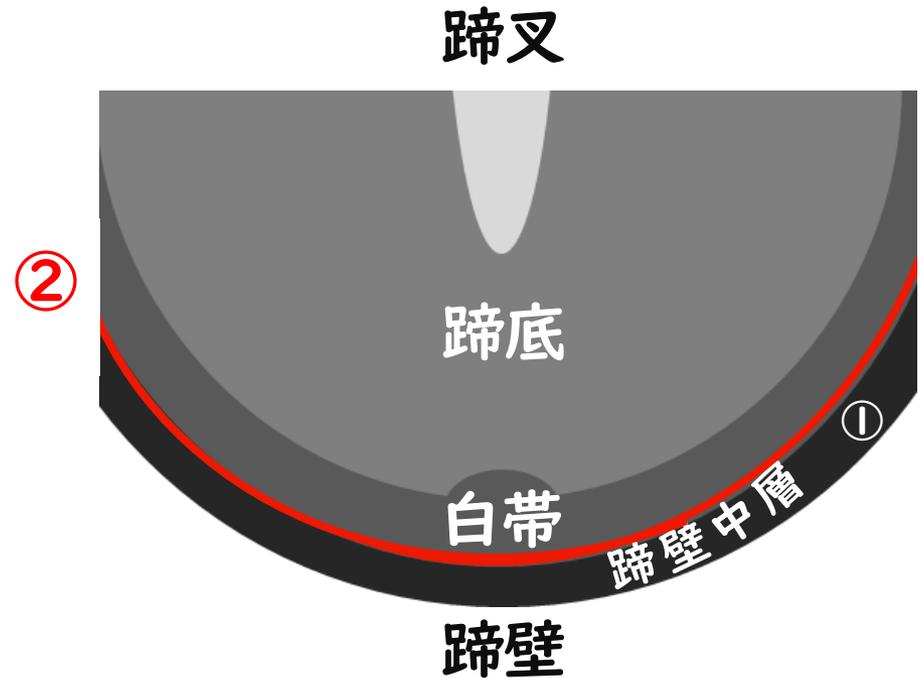
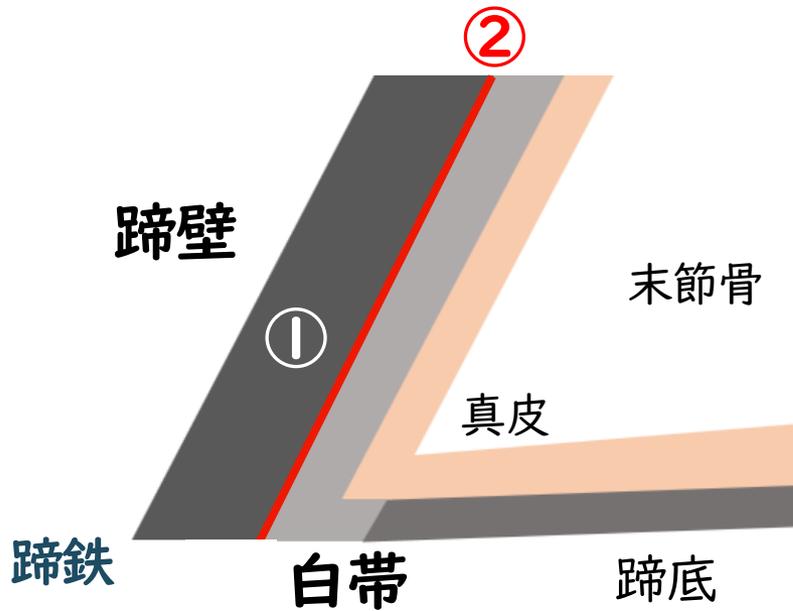
蹄を保護する作業が大変！！

蹄を簡単に保護できるものは…

保護ブーツは高価

何かいいものはないだろうか？

蹄の病気



蹄壁剥離症

① 砂のぼり

蹄壁中層に空洞ができる

② 蟻洞

蹄壁中層と葉状層、蹄壁中層と白帯の結合が分離

蹄の病気

蹄壁剥離症の症状

- ・ 跛行（はこう）… 歩様に異常をきたしている状態

蹄壁剥離症の予防

- ・ 蹄鉄の装着時は初期病変を発見しにくい
- ・ 装着する鉄の適性を見極める必要がある



蹄壁剥離症の治療

- ・ 分離した角質の除去し病変部を外気に露出
- ・ 細菌性の場合、消毒液の使用（獣医師・装蹄師と相談の元）
- ・ 蹄が再生するのを待つ

保護ブーツ



※実際の商品を参考にしたイメージ画

トリートメントフーフブーツ Treatment hoof boots

日本での相場

- ・ 1万円から3万円

利点

- ・ 何度でも使用できる

欠点

- ・ サイズ選択が難しい

うまぐつ
馬沓の編み方を調べたきっかけ

保護する部位が蹄底だけの場合…

馬沓が利用できるかもしれない！！

しかし、稲わらや縄の入手が難しい
ホームセンターに売っているが高価
かつ汚れて作業できる場がなかった

そこで、見た目の似た着色された紐を
利用してみることに

馬沓の材料（昔）



▲ 馬の資料館常設展示,北海道帯広市

稲わら

- ・ 昔はイネで衣食住を揃えた
- ・ 編み台を使うこともあるが、手足で編むことができる
- ・ 防水性はあまりない
- ・ かなり密で分厚い
- ・ ウシの沓もある

馬沓の材料（今）

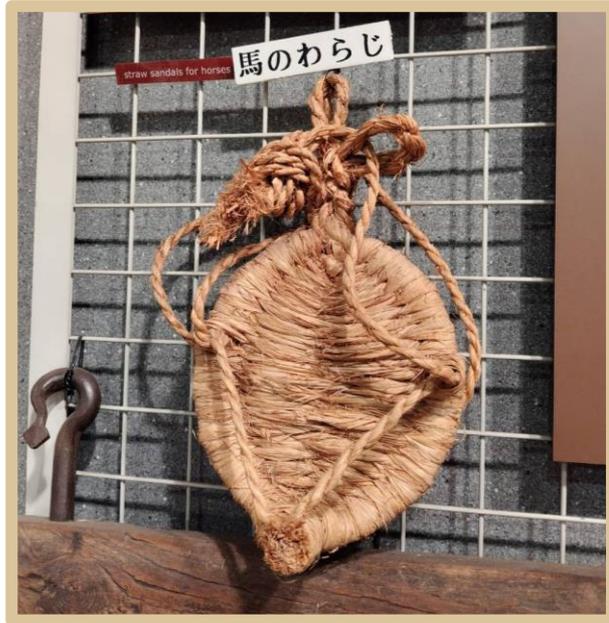


▲ 実際に編んでみたもの

ポリプロピレン

- ・よくある紐
- ・防水性は多少ある
- ・手足で編む
- ・登山家がワラジを編んで、使ったりするそう
- ・着色されたものだと、かなり稲わらのものに近い

比較



稲わらの馬沓

- ・ 分厚く密
→ その分丈夫だと推測
- ・ 環境にやさしい

ポリプロピレンの馬沓

- ・ 編む際に汚れない
- ・ 材料がすぐ手に入る
- ・ とても軽い

馬沓の編み方

手足で編む場合

① 材料を準備する

✓ ひもA (枠になる)

150-200cm

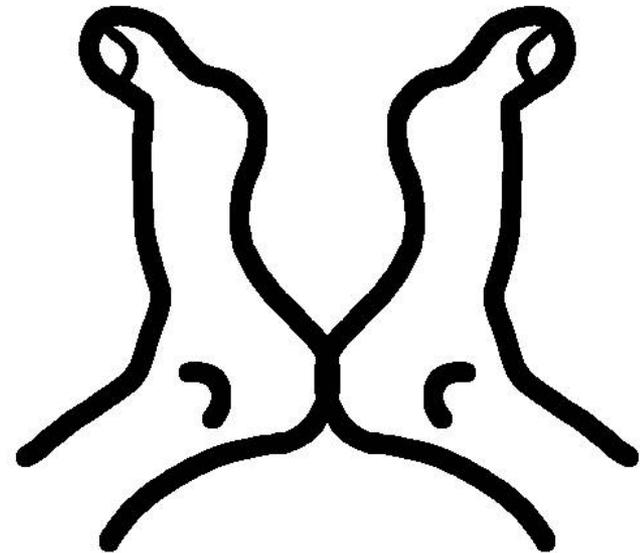
足に固定して基礎として使用
余剰が蹄へ固定するための部分

✓ ひもB (編んでいく)

30-100cm程度

編みやすい長さで複数用意
足りなくなれば継ぎ足せる
底になる部分

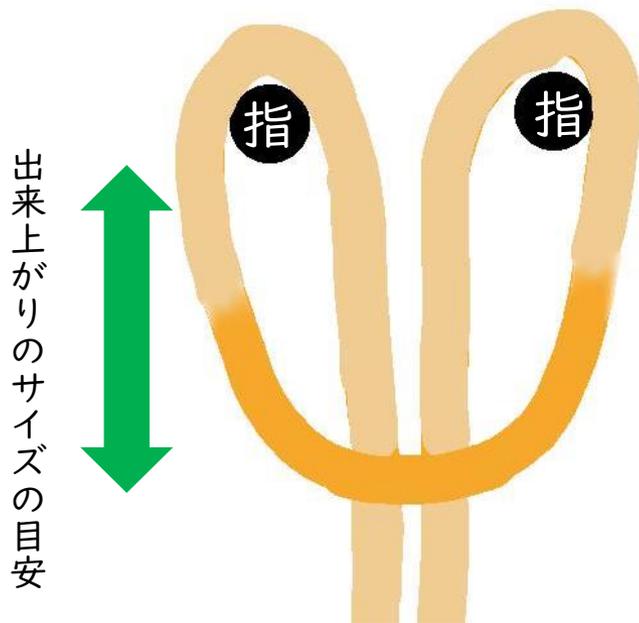
② 踵を併せて座る



馬沓の編み方

手足で編む場合

③ 親指に紐をかける



④ 編んでいく (青)



馬沓の編み方

手足で編む場合

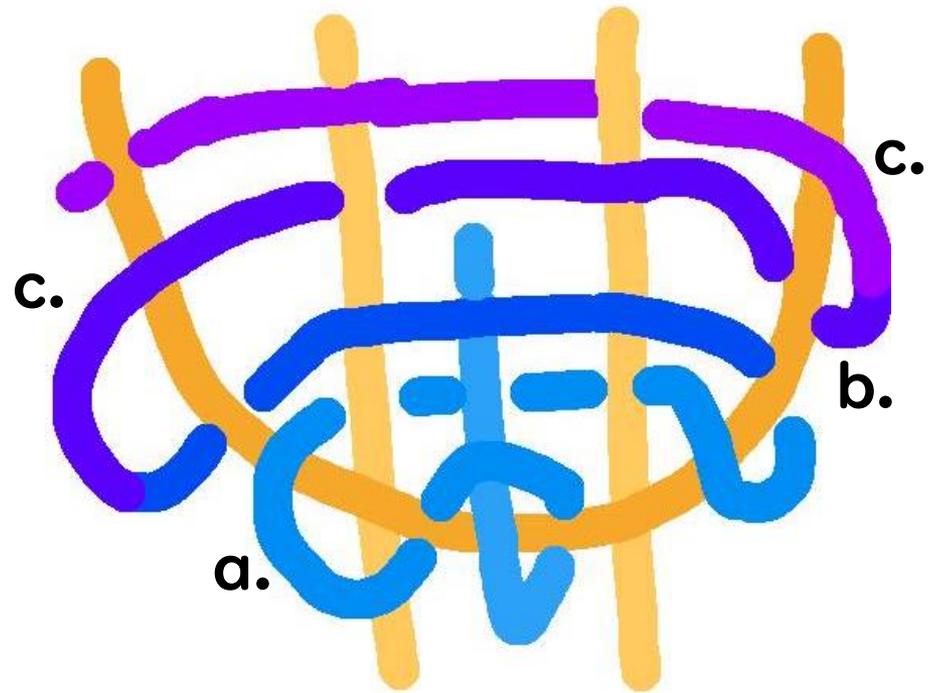
④ 編んでいく

a. 上・下・下・上

b. 下・上・上・下

c. 上・下・上・下

C.を繰り返す



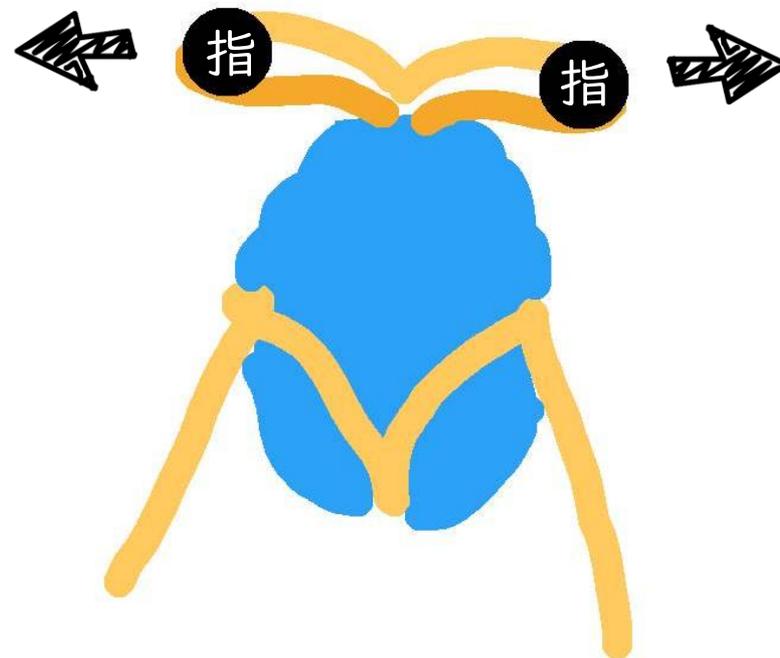
馬沓の編み方

手足で編む場合

⑤ 鼻緒の様な部分を作製



④ 再び編んで引き絞る

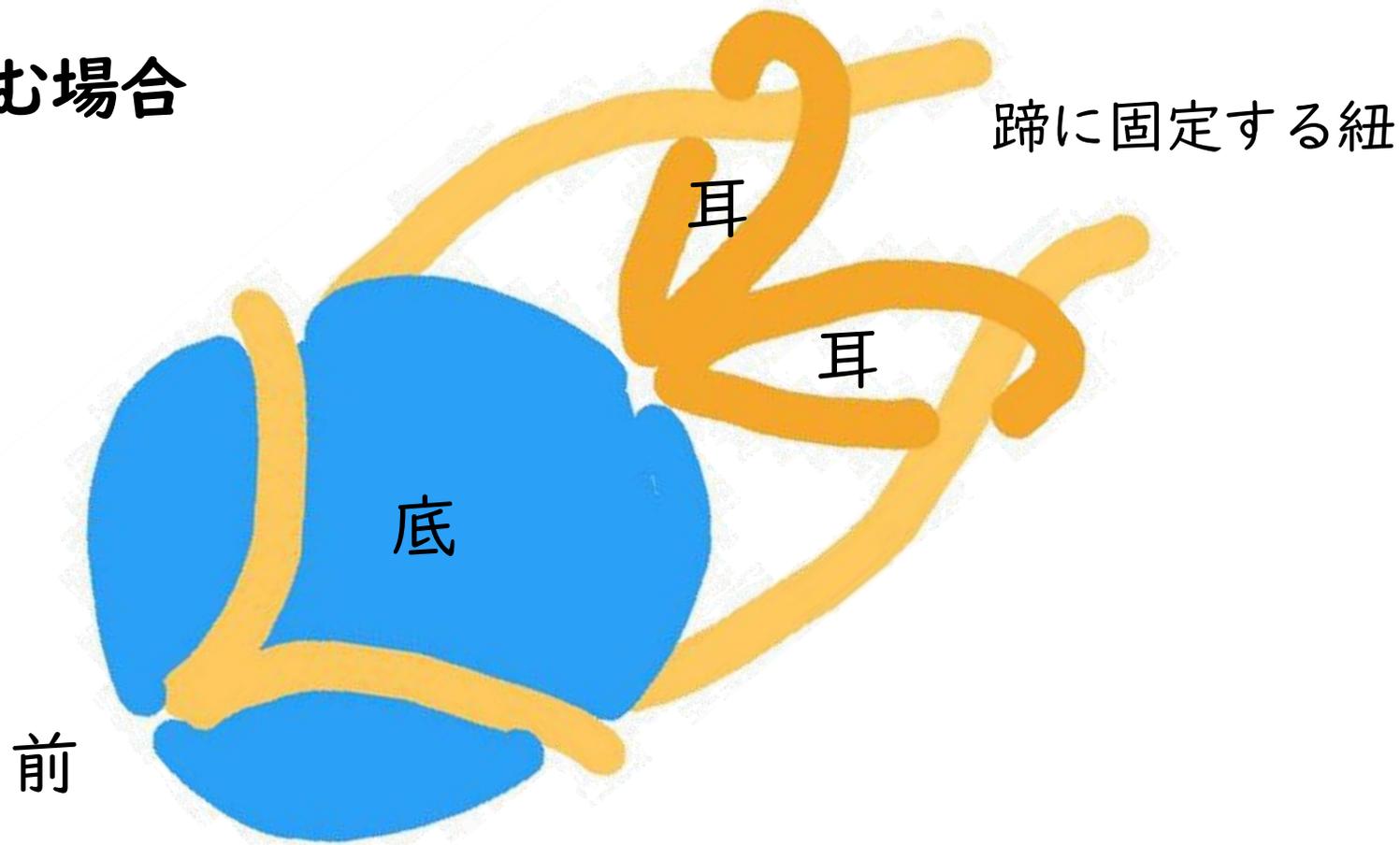


※伝統的な編み方の完全再現ではない

馬沓の編み方

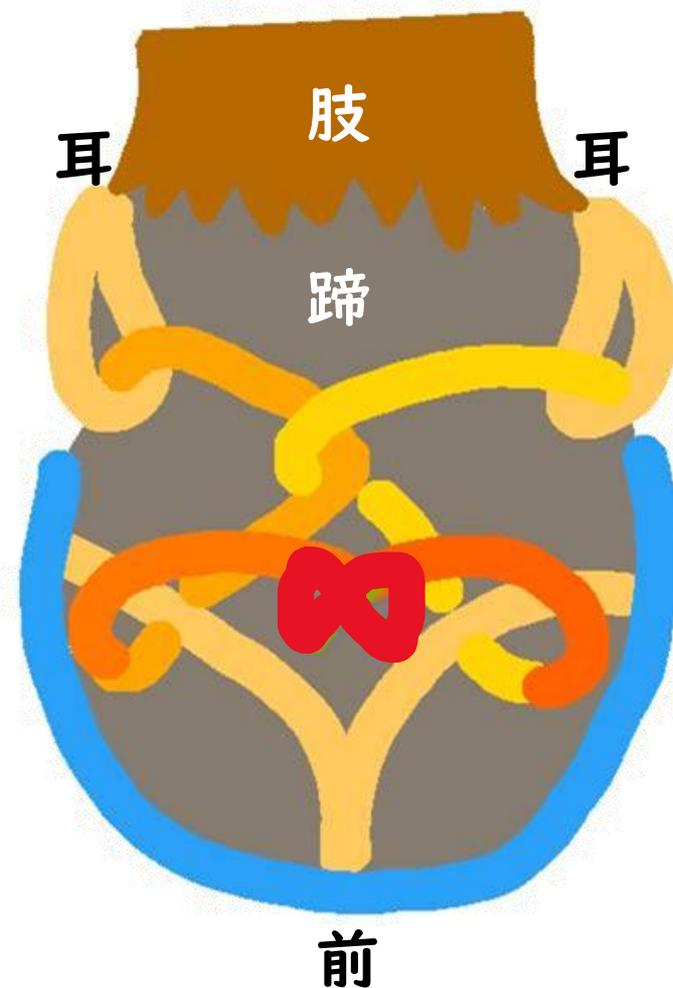
手足で編む場合

⑤ 完成



馬沓の履かせ方

- ① 馬の肢を持ち上げる
- ② 蹄を上にして履をあてる
- ③ ずれないように地面へ
- ④ ひもを図の様に掛けて結ぶ
(最後は赤)
- ⑤ 残ったひもを切る



試着させてみた



協力してくれた馬

大学馬術部の馬場馬
騙馬 9歳
サラブレッド

所感

- ・馬は嫌がらない
- ・意外とフィットする
- ・簡単に装着できる

うまぐつ

馬沓の利用価値

① 蹄の怪我や病気の応急処置に利用！？

厚さや丈夫さに課題は残るが…

それぞれの馬に合わせたサイズがすぐに作れる！

② 砂利道での運動時に装着

③ 落鉄の防止や落鉄時の応急処置

③ 昔の日本の馬文化を再現！

利用価値は色々ある

まとめ

過去

馬の蹄を守るため日常的に使用

現在

蹄鉄の利用が主となって文化は消失寸前

未来

応急処置に利用・新たな活用の可能性！？

私がピンきたポイント

- ・江戸時代の旅行や荷運びは徒歩や曳馬
- ・イネは日本の衣食住を支え馬の蹄も守ってきた
- ・調べてみれば意外と見つかる地元の馬歴史

参考文献

「日本馬術史第四巻」,日本乗馬協會,大日本騎道會,1940.10.1

「騎行・車行の歴史」,加茂儀一,法政大学出版局,1981.3.5

「春季特別展馬追い街道」,馬事文化財団馬の博物館,馬事文化財団,2001.3

「北海道の民具」,北海道開拓記念館,北海道新聞社,1993

「民具のつくり方 わら細工」シリーズ1/19,民具製作技術保存会,1983.10.16

「名物へんば餅,名前の由来」,2023.10.17

https://henbaya.jp/henbamochi_yurai/

「お江戸のベストセラー,東海道中膝栗毛発端」,2023.10.17

<https://zaimokuza-shobo.jp/oedo/hizakurigenohajimari/h01.html>

「JRA馬の資料館,蹄疾患「蹄壁剥離症」について」,2023.10.17

<https://blog.jra.jp/shiryoushitsu/2019/03/post-40aa.html>